

非ボルドー液散布体系の確立

研究のねらい

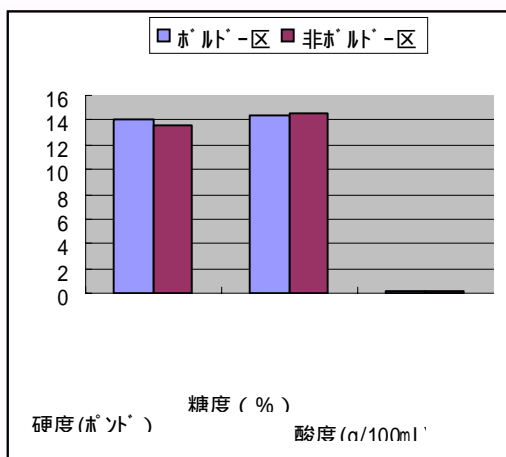
ボルドー液は、大正7年に発刊された日本最初のリンゴ防除暦に掲載されて以来、長年にわたって使用されてきた。しかし、本剤はリンゴ園土壌における銅の蓄積、ダニ剤の使用制限と効力低下、黒星病など重要病害に対する効力不足、果実や衣服の汚れ、薬害の発生など多くの問題を含んでいる。

そこで、ボルドー液と非ボルドー液の両散布体系における、病虫害防除効果と収穫果の貯蔵性及び果実品質を比較検討し、有機殺菌剤による散布体系の確立を図る。

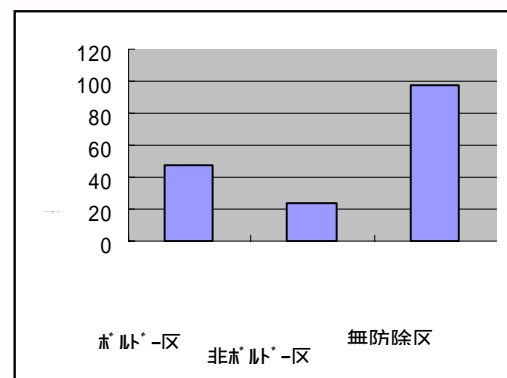
研究の成果

1. 有機殺菌剤を用いた防除区（以下、非ボルドー区）は、ボルドー液を3回使用した防除区（以下、ボルドー区）に比較して斑点落葉病に対する防除効果が高かった。
2. 果実品質に関しては、非ボルドー区の糖度がボルドー区に比較して少し高まったが、さほど品質差異はなかった。着色には有意差がみられなかった。非ボルドー区では貯蔵中のヤケが多くなる傾向はあったが、防除薬剤の違いは貯蔵性に及ぼす要因としては小さいものと考えられた。

主要な試験データ



第1図 果実品質の比較



第2図 斑点落葉病に対する防除効果の比較

発表資料

1. 栽培部(1987). 無ボルドー散布体系果実の品質と貯蔵性. 昭和62年度指導参考資料: 90-91.
2. 病虫害部(1984-1986). ボルドーと非ボルドー体系の防除効果比較試験. 病害に関する試験成績: 143-145(1984), 180-183(1985), 253-255(1986).